

第3分科会 「保健予防活動を地域住民とともに」

～健診、地域での健康づくり活動をすすめるために～

◇運営委員 古徳 洋子（岡山医療生協労組）

大熊 絹枝（新潟民医労）

工藤美恵子（埼玉県医労連個人加盟労組）

◇助言者 小林 修平（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科学課長）

この分科会は、地域住民と共に、健康づくりの活動を進め、みんなが健康で自分らしく誇りと夢を持って暮せる社会をつくる。地域で健康を守ることの重要性が根付いたならば、医療崩壊や医療・福祉の改悪も防げるのではと思いながら全国で活動を行っている医療福祉に視野を広げて、色々な人々とつながり、お互いの力を出し合っ、地域住民とともに「みんなが安心して暮せるまち」を作っていきたいと運営してきました。

特定検診もすでに5年目を迎えようとしています。その中で、運動指導員、予防運動指導員などさまざまな種職が誕生して、検診事業所も増え活躍している方々が増えています。

しかし、特定健診も特定保健指導もなかなか受診率が上がらない、特定保健指導のフォローも難しい、どう進めたらよいかなど、悩んでいる仲間もたくさんいると思います。日頃の活動を持ち寄り、経験を交流しましょう。

また今回は、健診に限定せずに、「予防活動・健康づくり」をめざして幅広く経験交流したいと考えています。

依頼レクチャー・レポートは、

①地元青森から平均寿命最下位から脱出のための「地域レベルでの糖尿病や高血圧などの慢性疾患への働きかけ」の実践報告。

②助言者の小林先生からは「出生時体重が成人期の健康にどう影響するのか」についてお話いただきます。

③国立国際感染医療センターとのレポート「若い HIV 患者が増えている。在宅での HIV 患者の対応から大学での予防プロジェクト活動」の報告

④長野医療生協から「健康体操を普及しながら地域の健康づくり活動をすすめています」という、健康体操の実技も含めての報告などです。

参加したら元気になれる分科会にしたいと思います。

その他にも、多数レポートお待ちしております。